

# 県立多治見病院 緩和ケアチーム通信



発行：県立多治見病院 緩和ケアチーム 2014年 2月号 VOL.35

文責：桜井 由美子・長谷部 千夏 編集：櫻田 亜矢子

『コンコーダンス』という言葉を知っていますか？これは、英国保険省と薬学会とで作られた Medicines Partnership Group により導入された概念です。従来は患者さんがきちんと内服するという意味で「コンプライアンス」が用いられてきました。しかしそこには規則や権威のある人の要求・命令に従うという意味があり、近年はよく耳にするようになった「アドヒアランス」という概念が用いられています。アドヒアランスは服薬、生活習慣の修正などについて患者さんと医療者が合意した治療方針に、患者さんが自発的に従うことを意味しています。それでも服薬行動をなかなか改善できないことから、患者さんとのパートナーシップに基づく薬の処方と使用のプロセスが『コンコーダンス』という概念です。私達看護師は、患者さんが元来持っている価値観やライフスタイルを大切に、患者さん自身が自分の人生・生活に対して服薬が利益をもたらすと判断した時に薬を飲むという事を理解し、治療目標、症状緩和のための支援をしていきたいと考えています。

がん化学療法看護認定看護師 桜井 由美子



薬剤師の長谷部です。

今回は、緩和ケアとは直接関わりがないですが、薬の一包化について考えてみたいと思います。我々医療者からしてみると、薬の種類が多い場合や取り出し間違いが多い高齢者の方には服用時間が印字されて、取り出す手間の少ない一包化が患者さんのためには良いだろうと決めつけがちです。

「患者にとって一包化は、bestの管理法であるかどうか？」答えは否です。時折、「どれがどの薬剤がわからないから一包化にしないでほしい」と言われる患者さんもみえます。

錠剤ひとつひとつの識別がつけにくい一包化は、薬効を理解し、服用の意義を納得して服用する(これをアドヒアランス)といいますが、そうしたいという患者さんの意欲の芽を摘んでしまう可能性もあります。

お薬カレンダーも然りです。その患者さんにとってどんな薬の管理が best かは、本人と相談しながら進めていく必要があります。そうする過程がまたアドヒアランスを高めていききっかけになると思われます。

## 第7回緩和ケア勉強会を行いました。



2月6日に緩和ケア勉強会を行いました。今回は緩和ケア病棟看護師から実際の事例を交えてお話していただきました。『家に帰りたい』と願う患者の気持ちに寄り添って家族と一緒に支える看護師の姿が参加者に伝わったようです。



## 第8回 緩和ケア勉強会

## 3月の勉強会予定

日時：平成26年3月13日 18時～19時半

場所：中央診療本館3階講堂

内容：『緩和ケア病棟におけるボランティア・イベント活動』

緩和ケア病棟ボランティアスタッフ

『緩和ケアチームスタッフからのお話』

医療相談員：大蔵 真子・言語聴覚士：市原 邦夫

ご参加お待ち  
しております☆

